

## 第2回大井川流域委員会 議事要旨（案）

日時：平成21年3月26日（木） 14:00～16:00  
場所：サンパレスホテル 2F スターパレス

中部地方整備局では「大井川水系河川整備計画（案）」の作成にむけて、住民等の意見や整備計画の骨子等について議論いただいた。

### 1. 開会

### 2. 挨拶

挨拶（静岡河川事務所長）

### 3. 議事

#### （1）第1回大井川流域委員会議事要旨（案）

「大井川流域委員会議事要旨（案）」について確認されました。

#### （2）大井川流域委員会の運用について

「大井川流域委員会の運用（案）」について確認されました。

#### （3）住民等の意見について

主に次のような意見をいただきました。

1. アンケートの読み解き方を注意すべき。例えば、治水上安全だと思える人が多いとか環境に関する意見が多いというアンケート結果を参考としながらも鵜呑みにせず、治水の重要性について河川管理者は方針を出していくべき。
2. 選択式のアンケートは項目が粗いため、これだけでは地元の意見の把握が難しく、アンケート結果を機械的に判断しないでほしい。  
→説明責任を問われており、アンケート結果を受けて治水の重要性等の認識を持たせるべく、今後の住民意見交換会にて、説明を行ってほしい。
3. 「水量が少ない」というアンケート結果があったが、水量が昔と比べ少なくなっているのか客観的な比較をすべき。  
→資料-3-1にて説明
4. 事業者等（漁協、農協、森林組合、中電、ジャーナリスト）からの聞き取り又は現地視察等において流域委員会委員が聞く場を設けてほしい。  
→資料-2、資料-5にて説明

#### （4）整備計画の骨子について

主に次のような意見をいただきました。

1. 整備計画の策定にあたっては、県とよく調整して策定してほしい。
2. 川は上・中・下流を切り離して考えることは出来ず、一体として考える必要がある。
3. 環境に関する数値目標の記載は難しい。このため、「生物の生息できる環境をつくる」程度という感覚でよい。
4. 牛尾山開削による長期的な土砂移動等の影響を報告してほしい。  
→資料－３－１にて説明
5. 塩郷堰堤から赤松地区までの流量増の対応が難しいので、利水者の意見をよく聞いてほしい。  
→資料－２、資料－５にて説明
6. 地下水の問題として地下水位の変動状況も留意すべき。  
→資料－３－１にて説明
7. ダムの濁水対策検討も重要だが、低温水の放流対策も重要なので留意すべき。
8. コンクリート護岸の設置は許容できるが、生物の環境保全のためには、瀬と淵の消失は問題が大きいので、瀬と淵が形成できる川づくりに留意してほしい。
9. ドウクツミミズハゼの一種は安倍川・大井川など生息箇所の少ない貴重種である。
10. 景観や生物の生息環境として、樹木の保全・創出を積極的に考えてほしい。
11. 河川における、地震による地滑り発生の可能性も留意すべき。
12. 大洪水・大地震の可能性は大いにあり、大災害への対応を避難のための情報伝達や危険な箇所に住まない地域計画などのソフト対策も必要となる。
13. 気候変動による大規模自然災害への対応として、施設整備による対応は難しいので、ソフト的な対応や調査方針的なものを含めて、対策の方向性を出すべき。
14. 海水温の上昇に伴う海面上昇は、津波・高潮に対する危険度が増すことから、対応策にも留意すべき。

**(5) 今後の予定について**

今後の予定について確認されました。

**4. 閉会**

以 上